

二三〇。魚音潜航 爆雷防禦 一回天戦用意要具牧メレ
 敵ハ直衝ナキ輸送船團ノ如ク爆雷攻撃全無ナシ 距離誤観
 測ハ結果戦果ヲ諦メ潜望鏡ヲ下シ潜航ニ移ラントセン所
 命申立直續イテ誘爆音ヲ聴取 艦長再ビ潜望鏡ヲ上げ望見
 スルニ目標トセシ橋灯ラシキ灯火依然消滅シテラゲレドモソノ後方
 三火炮ヲ認め得タリ 月令四・八 月没二三一六 艦位北緯
 一九二度一五分 東経一三二度五〇分

昭和二〇年六月一六日

船團 雷撃艇ニヨリ位置ノ移動ト哨区ノ変更ヲ余儀ナクセラレタル
 ハ日出迄一戦速ニ北上ヲサイパン沖繩補給路上ニ向フ
 考慮ノ結果左記ノ戦術概報発信。二一。
 一三二五。敵輸送船一隻撃沈ヘレハ六 発射雷数ニシ

海軍

今回ハ方位測定セラレザリシモノ、如シ 電波放射時間約一分
 〇四五ハ潜航 自傷潜水

一九一五海上

海上直衝ハ未ダナリ明ルカ 水平線上ニ湧キ濤ル 夏雲ノ赤
 モ白ク照リ輝キタリ 此ノ白雲ノ峰ニ段々ト濃ク隈が生ジテ
 終ニ一面ニ薄黒ク不気味ナル形相ヲ呈スル頃 南十字星ハ
 水平線上ニスナリト十ノ字ヲ描イテシメヤカナ光ヲ放ツ
 針路四〇度 艦ハ今新哨区ヲ目差シテ暮島地ニ北上中ナリ
 雲間ニポツネントウボスリスノ冷キ光ヤリ

昭和二〇年六月一七日

〇四五ハ 電探感アリ 飛行機 右三〇度 三五軒感三
 〇五〇ニ 急速潜航 以後自傷潜水 一二日以来久シ艦ノ敵機ナリ

風速八乃至一〇米ノ見込 (登 邱 指揮官)

一九〇〇ニ於ケル本艦ノ位置 N 三三・一二 E 一三六 ウネリ稍
大ニシテ模様ナリ 氣壓七五〇 耗前後

昭和二〇年六月二〇日

〇四三三 潜航

〇七〇〇ヨリ〇八〇〇迄物糧庫ニテ方位角觀測訓練

一八四七浮上 針路三五〇度トナシ一路歸途ニ就ク

氣壓七五〇 耗以下ニシテ終夜細雨シテ模様 天測不能ナリ

無念遂ニ會敵セズ

(終)

海 軍

所見

海軍中尉 上山春平

一 低速目標 (六乃至八節)ノ襲撃訓練ハ四、五回ニテ打切り專ラ
 高速目標 (一四乃至一六節)ノ襲撃訓練ヲ実施スル必要アリ
 燃料關係ニテ駆逐艦ノ協同困難ナレバ、魚雷艇等使用スルモ
 可ナラン (因テニ大神特攻長ノ談ニ依レバ、別府灣ニ泊艦馬
 在泊中ニシテ航空隊目標艦トシテ一五〇〇噸ヨリニ二〇〇噸迄
 毎日訓練中、回天ノ襲撃目標トシテ利用ノ件既ニ了解清ト、
 由 潜水艦發進ノ際予メ打合セテ充分ニテレヲキ、尙海面ニ進
 出ノ上、高速目標ノ照明襲撃ヲ訓練セバ極メテ實戰ニ
 近キ效果ヲ收メ得ベシ)

二 訓練實施上諸種ノ難點アリランモ、月明襲撃訓練絶対必要
 ナリ、殊ニ丁型潜水艦ニアリテハ晝間敵ノ制壓掃討ニ會

海軍

ヒタル場合、脱出極メテ困難ナレバ、月明襲撃ヲ立前トセザ
 ルベカラズ、尙夜間襲撃ニ備ヘ、照準角及斜進目盛、照明灯ノ
 工夫必西セナリ、夜光塗料ハ全廢スルモ可ナラン、徒ニ目盛ヲ
 不鮮明ナラシムルノミナリ

三 液注入後ノ回天壽命ノ短縮ニ對スル、抜本的對策トシテ
 九五式魚雷ニ型ノ如キ操空發動方式ヲ考慮ハ西セナリ

四 長期行動ニ於テ艦内ノ起居ニ終始スルトキハ、近距離物象
 ノミヲ視ルルタメ、遠距離物象ノ視認不慣トナリ、尙退屈線レ
 ニ、復タ儘事務等ノ機曾モ多キ爲、塔乗員ノ視力減退
 ハ當然ノ事期サルベキ現象ナリ、之ガ對策トシテハ、浮上中適當
 ナル時ニ塔乗員ヲ艦橋ニ上げテ水平線又ハ天体等ヲ比較的
 長時間 (三〇分乃至一時間) 熟視セシムルヲ可トス、長時間淺航
 ノ連續ヲ予想サルノ現状ニ於テ此ノ際新鮮ナル空氣ノ下